

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100511		
法人名	有限会社ヤマギシ企画		
事業所名	グループホーム入江 1階		
所在地	釧路市入江町8-29		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果市町村受理日	平成27年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0174100511-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念を大事に認知症ケアを行っております。職員にも研修で色々学んでスキルを高めて頂き実践に繋げています。認知症の方はどんな人でもケア出来る自信を職員に持って貰い、上司、同僚にも何でも聞ける、話せる職場を目指しています。利用者様同士が助け合い、職員が支え、尊厳を守りながら自立支援を行っています。地域の中での高齢者支援の拠点となり、利用者様、家族様が安心して入江で良かったと言われるケアを実践しています。往診医や家族様の協力を経て、ここ2年で4名の利用者様を看取りさせて頂きました。又共用ディも行っており、職員が協力しながら、通所の利用者様とホームの利用者様が顔馴染みとなってレクリエーション、アクティビティ等を楽しまれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○事業所に隣接して高齢者下宿があり、認知症の方3名が訪問して共用ディを利用している。イベントに利用者や家族はもちろん地域住民も参加して交流し親睦を深めている。
 ○毎月お便りで、近況や利用者の日頃の様子、身体状況を家族に伝え、家族会を開催して意見や要望が気軽に言えるよう努めている。
 ○地域との関わりを大切に、小学校行事や町内会行事に積極的に参加して交流を図っている。
 ○重度化や終末期の看取りについては、利用者や家族と契約を交わしており、医師や家族と全職員が共有してチーム支援に取り組み看取りを行なっている。
 ○職員は理念の下、利用者がよりよく暮らせるよう思いやりを持って寄り添い、尊厳を守り日々笑顔で生き生きと生活が出来るように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は各自仕事に入る前に理念を復唱し、利用者さんに聞いて頂いている。職員は理念の大事さを共有して実践しています。	職員それぞれが職務の前に理念を復唱して職務に取り組んでいる。施設長と管理者や職員はその理念を共有し、日々のケアに繋げるように実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には参加させて頂いている。近くに小学校があり、運動会や学芸会などはお招き頂き、野外活動では年に数回子供達が訪問して下さるなど交流を大切にしています。	町内会行事に積極的に参加し、地域の小学校から運動会や学芸会に招待されている。又、子供達も野外活動で年に数回事業所に訪問があり相互に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長が小学校で認知症サポーターの講演をして認知症の理解をして頂いています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回は運営推進会議を行い利用者様へのサービスの報告や出席の方からその場で意見を頂いたりして次の会議に繋げて、サービス向上に活かしています。	2ヶ月に1度、家族、町内会役員、地域包括支援センター職員などが参加して開催している。利用者の状況や事業所の取り組みについて報告し、サービスの質の向上について、また防災訓練の参加協力について話し合っており、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。参加者の認知症についての質問には丁寧に説明している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当の方とは日頃から分からない事は問い合わせている。メールなどでお知らせが来たり、研修などにも協力して関係を築いている。	市役所の担当とは電話やメールで連絡を取っている。行政からお知らせや研修参加の依頼があるので、積極的に参加して協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議で意見を述べたり、疑問があれば話し合っている。禁止の対象になる具体的な行為は理解しており、施錠は夜間以外はしておらず実践的に拘束をしないケアを行っております。	身体拘束の事例はなく、職員会議で職員と話し合いを重ね、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関施錠は防犯上、夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	数多くの研修に参加し学ぶ機会が多く、カンファレンスや会議等での意見を取り入れ十分に注意を払って、虐待禁止を当たり前の事として職員は理解しております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、施設長は研修に参加され成年後見人制度は活用されている利用者様もいて支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、施設長が対応しており、十分な説明、理解される様務めております。又改正等は説明後文書にて納得をして頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度のお便りは職員が家族様に状況を書き、家族会は年度初めに行い、ホームの行事等は家族様も参加され、色々要望など意見が言える機会を設けて反映させて頂いています。	家族の訪問時や、家族会、運営推進会議、事業所行事等を利用して家族の意見や要望を聴いて記録し、職員会議で話し合い運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議等で職員の意見や提案、困っている事など聞く機会を設け、皆で話し合っています。	会議の中では職員同士が意見を出し合い、全職員で討議しながら意見を反映させている。日常の業務中でも提案があれば直ちに話し合っ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料水準などその時々に見直して下さり、やりがい、向上心を持てる様に努めて下さっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加をして貰い、力量に合わせて、無理の無い様に参加して頂いています。現在ホームの職員8名が働きながら介護福祉士の資格を取得しており、新たに3名の方が取得の取り組みをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少ないですが、研修等のグループワークなどで交流し意見を伺い、サービスの向上の取り組みをいたしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を共有し、傾聴を心掛け一人一人が話やすくなる様信頼関係に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談を行い不安な事や要望など聞いて、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は24時間シートなどを活用して支援、介助を職員と話し合い、見極め支援しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の残存能力を生かし、出来る事、出来ない事、支援していく事などを職員で話し合い共有して、信頼関係に努め、又利用者さんの意見を尊重しながらケアに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1度のお便りで近況や普段の活動など日頃の様子や身体状態を家族様に伝えて、利用者様と家族様の関係を築いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や身内の方が来所した時は回りに配慮し、自室等で気兼ね無く話し、過ごせるように支援しております。	晴れの日には近くの公園に散歩したり、馴染みの美容室や喫茶店に行ったり、近隣の商店に買い物に出かけるなど馴染みの関係の継続を支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や活動、レクリエーションなどで関わりを多く持つ様支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わっても時々顔を見せて下さりクリスマスにはシャンパンを毎年持って来て下さる家族様もおります。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の利用者さんの希望、意向、支援等を検討しながらケアに努めております。	利用者ひとり一人に担当職員がおり、日常生活の中で利用者の希望や意向を把握してケアプランに反映させている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴、暮らし方。環境などフェイスシートにて職員で共有しております。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録2にて24時間の心身状態や過ごし方、活動等を把握しています。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者の担当者がモニタリング後、職員で話し合っただけでケアプランが出来、意見等は反映して現状に合わせた介護計画を作成しています。	担当者が個々の利用者のモニタリングをして全職員で話し合い、家族の希望を取り入れる等、現状に即した介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実践や身体状況や気付きなど個々に合わせた用紙にて記録し職員で共有しております。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの状況に合わせ変化に対応し会議等を行い、柔軟な支援やケアに職員皆で努めています。				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや小学校、町内会の喫茶店。美容室、食材の買い物など各利用者さんに合わせお出掛けし楽しんで頂ける様支援しています。				
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族様対応や職員対応及び往診医と家族様の希望やご本人に合わせ適切に治療を受けられる様支援しています。	本人、家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診は家族が対応するが、家族の希望により職員も対応している。月2回訪問看護師による健康管理を行い、協力医療機関と連携して往診できるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護師が見え、日々の状態の記録を見て頂き適切に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日々の生活記録や投薬記録など情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度カンファレンスを行って、家族様や医療との連携をして、十分な説明や協力をして頂いている。又職員は連携、記録、伝達等を行い、看取りを数回させて頂きました。	終末期に訪問医から家族へ説明がある。家族の希望により職員会議を行い、医師・事業所・家族と連携してチームで支援し、ここ2年で4回の看取りをおこなった。事業所は詳細な記録の下、家族と書面を取り交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等に参加した職員は会議等で報告し年に数回は実践を行い共有しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方や付近の方の協力を得て年に2回消防訓練を行っております。	事業所では年2回防災訓練を行っている。1回は消防署立ち合いで火災訓練を行い、町内会・地域包括センター・家族等に参加をしてもらって訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し心掛けてケアを行っています。	職員は、尊厳やプライバシーを損ねないように、利用者の近くに寄り添って言葉をかけるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時の状況で利用者様の希望や願いを聴き、職員が同行したり、自己決定出来る様な声掛けで支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんのペースに合わせる様努力をしてケアを行っていますが、業務に追われる事も時々あります。食事等は個々に合わせて摂取して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度は美容室の方に来て頂き、身だしなみの支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、配膳、洗物、拭き、たたみ物等は利用者様の状況に合わせてコミュニケーションをとりながら活動として支援を行っています。	職員は利用者と一緒に買い物に出かけている。調理や配膳、下膳は利用者の身体能力に合わせて職員と共に行っている。明るい会話をしながら楽しい食事ができるように配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事が出来る様に食材にも旬な物を取り入れ食事量や水分等の摂取量も職員が解る様記録し支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で毎食後する人や支援が必要な利用者様は職員が行い夕食後は毎日義歯をお預かりし消毒を行っています。又歯科往診して頂いている方も数名居ります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット使用の利用者様のタイミングがずれて失敗も有りますが、2時間目安にトイレ誘導を行ってトイレでの排泄を支援しています。オムツの使用は有りません。	利用者の排泄パターンを把握して、タイミングを図りながら誘導し、トイレで自立排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、乳製品、体操、運動を個々に支援しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方も居りますが、職員を交代したりして個々に浴った支援を行っています。又通所の方も入浴介助を行っており、事業所の都合や曜日に関係なく入浴を行っております。	入浴は曜日、時間帯に関係なく毎日入浴できるように支援している。入浴剤は利用者の要望により色が付いた製品を入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室や居間等で個々に過ごして頂いて休息が取れる様支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬時は複数の職員で確認し合い、誤薬しない様個々に対応し支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、出来ない事は見極め支援し活動して頂き音楽、DVD、ゲーム、レクリエーション等を楽しんで頂きメリハリのある様な生活を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏は外へ出かける事が多いしホームの行事等は家族様や町内会の方が参加され支援出来ています。冬はレクリエーションやアクティビティ等を行っている。1日置きの買い物同行を利用者様に合わせて行い、外出支援は出来ています。	近くの公園や、町内の喫茶店に出かけている。ドライブを兼ねて隣の公園や日帰り温泉に出かけている。時には行きたい場所を聞いて要望に沿うよう支援をしている。	夏の期間は利用者と一緒に出かける機会が多いが、冬季期間も工夫をして利用者と一緒に出かける機会を設けることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の希望も有り、利用者様がお金の所持をしていなく、職員が代行して支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のADLが少しずつ落ちてきて家族様等のやり取りや意思疎通が難しくなっております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は回りに配慮出来る様工夫し、心地良い音楽を聴いて頂いたり、温度調節もこまめに行って季節に合わせた飾り付けを行う様に工夫を心掛け支援を行っています。	共有の場である居間・台所は綺麗に整頓している。廊下には写真や事業所便りが掲示され、居間は季節感が出るように飾り付けがされている。温度や湿度は居心地良く過ごせるように管理・調節されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外の所にも椅子を置き、利用者様が休息出来る様工夫を心掛けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた物や大切にしている物、タンス、アルバム、などが有り個々に合わせた居室になっており心地よく過ごせる様配慮に心掛けています。	居室にクローゼットが設置され、写真やカレンダーが飾られ、テーブルやテレビ等が置かれて居心地よく過ごせるよう工夫している。居室は個々の身体状態に合わせて家具を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゆったり、のんびり安心して過ごして頂ける様に、手すり、張り紙等で工夫し支援を行っています。		